

ユーザ・レポート ご協力ありがとうございました。

国、市、バス事業者とmcAccess eのコラボレーションで バスロケーションシステム『どこバス仙台』誕生!!

仙台市交通局 様 宮城交通株式会社 様



仙台市交通局よりご出席の自動車部長・南城英剛さん(左)と自動車部輸送課管理係長・渡部恵治さん(右)



宮城交通株式会社よりご出席の営業部次長・高橋嘉典さん(右)と営業部仙台圏対策課長補佐・本間洋一さん(左)

仙台市では、4月1日からインターネットや携帯電話に路線バスの接近情報を提供する『どこバス仙台』がスタートしました。

このシステムの通信媒体として採用されたのが800MHz帯デジタルMCA(mcAccess e)です。

mcAccess eでのバスロケーションシステムの構築は全国の先駆けとなり、注目を集めています。『どこバス仙台』を構築された仙台市交通局と宮城交通株式会社の皆さんにお話を伺いました。

快適で便利なバス活用のために。

バスロケーションシステム実現の

きっかけは、「平成14年3月、仙台市が国の推奨する『オムニバスタウン』(*)に認定され、バスの利便性を向上させる施策に対して補助金が適用されることになったことです」と仙台市交通局の南城さんが振り返ります。

続いて宮城交通株式会社の高橋さんにご説明いただきました。「『オムニバスタウン』というのは、交通施設等の整備から、低床バスやLED方向幕、コミュニティバスなど市民に快適にバスを使っていただくための総合的な施策で、そのなかにバスロケーションシステムもあります。目的は“イライラ感の解消”ですね」。

なるほど、たしかに待っているバスがなかなか来ず、イライラしたという経験は誰でもあるのではないのでしょうか。電車や地下鉄と違い、気象や交通事情などに大きく左右されるバスの宿命と言えます。それでも、お目当てのバスがいつ来るのかがわかれば、イライラ

感はかなり解消されるはず。

仙台市でバスロケーションシステムの愛称を募集したところ、550通も応募があったということですが、それもイライラ感の解消に寄せる市民の期待の表れとも言えそうです。選考の結果、親しみやすくわかりやすい『どこバス仙台』に決定しました。

ランニングコストと非常時の有用性が決め手に。

『どこバス仙台』の特徴は、携帯電話やパソコンを使って、誰でもいつでも利用できること。加えて、複数のバス事業者の情報が一緒に見られるということが挙げられます。

仙台市では、仙台市交通局で運行する仙台市営バスと宮城交通株式会社が運行する宮城交通バスの路線バスが、市域内を網羅するカタチで走行しています。システムは両事業者間の協力でできました。

システムを構築する上で、通信媒体として選択されたのがmcAccess eでした。その決定理由を述べていた



バス停でのバスロケ表示状況。



バス停にQRコードがついているので、機能付き携帯電話なら一発で『どこバス仙台』へアクセス!

仙台市交通局

所在地 ●宮城県仙台市青葉区木町通1-4-15
Tel/Fax ●022-224-5111(代)/022-224-5510
バス台数・路線数 ●514台/234系統
mcAccess導入 ●平成17年1月20日
利用局数 ●800MHz帯デジタル 537局(6スロット)

宮城交通株式会社

所在地 ●宮城県仙台市泉区泉ヶ丘3-13-20
Tel/Fax ●022-771-5310(代)/022-771-5455
バス台数・路線数 ●325台/180系統
mcAccess導入 ●平成17年2月21日
利用局数 ●800MHz帯デジタル 337局(4スロット)



仙台市民の足——
通称“市バス”(上)&“宮交”(下)

できました。

「オムニバスタウンの補助費は、立ち上げ時の機材やシステム構築などが対象で、その後のランニングコストについては事業者負担となるので、なるべく最小限に抑えたい。mcAccess eなら費用を抑えた上で確実性も確保できると判断したこと。それに、大地震など非常事態発生時を想定すると、通信輻輳が殆どなく非常電源など災害に強い体制が整っていることから、mcAccess eを媒体に使うということになったんです」。

これから広がる可能性も模索。

バスロケで便利になったのはバスの位置情報の提供による利便性だけではありません。「1日のデータ精算がmcAccess eを通じて自動的にデータベース化されるようになりました。今後のサービス向上につながるものです」と宮城交通の本間さん。

一方、仙台市交通局では「内



インターネット機能搭載の携帯電話なら、いつでもどこでもバス接近情報が見られます。携帯電話のほか、パソコンからも。家やオフィスで“バスがいまどこにいるか”確認できて便利。

部の使い方として業務支援機能を持たせています。本社と各営業所に専用のパソコンを設置し、〇〇営業所の何号車がどこを走っているという情報が地図上に表示できるようにになっているんです。ですから、お客様から問い合わせや苦情があった際に、瞬時にお伝えできます(南城さん)。さらに渡部さんから「走行履歴を内部資料として蓄積しておいて、ダイヤ改正に反映しようという考えもあります」と、今後の活用についての可能性も披露していただきました。

利便性の高いバス交通の実現に貢献。

さて、市民の期待の星『どこバス仙台』の評判について伺ったところ、「まだ運用を開始して間がないため、反応が少ないものの、便利にお使いいただいているようだ」と捉えられています。宮城交通の本間さんによれば「家で『どこバス仙台』にアクセスし、バスの接近表示を見てから家を出られるお客さまもいらっしゃいます」とか。

季節的にみればさわやかな春よりも、冬の方が待つのはずっと辛いもの。その頃には『どこバス仙台』が浸透されていると予想され、それまでに利用者にも使い慣れてもらい、また利用者側も利便性をもっと追求していけると考えられています。

『どこバス仙台』はバス

接近情報だけでなく、イベント等による迂回・変更情報を事前に流したり、事故・渋滞等で〇〇路線が遅れているなどの情報も随時お知らせし、時刻表もリンク先の各ホームページで調べられて便利。さらに、各停留所にQRコードがついていて、『どこバス仙台』へすぐにアクセスできるのも市民にはうれしい配慮です。

まさに『オムニバスタウン』——利便性の高いバス交通の実現に向け計画を推進中の仙台市へ一役買っているmcAccess eなのです。

バスロケひとロメオ

mcAccessを利用したバスロケーションシステム等は仙台市(市交通局・宮城交通(株))のほか、東京都(都交通局)、名古屋市(市交通局)、京都市(市交通局、「バス運行総合システム」)及び大阪市(市交通局)の各都市で活躍しています。また、国土交通省では複数のバス事業者で情報の交換・共有を可能とする「公共交通情報データ標準」を推進しており、関係者は、バスロケーションシステムの導入拡大とバス利用者へのサービス向上に通じるものと期待しています。

オムニバスタウン(*)とは

オムニバスタウンは、交通渋滞、大気汚染、自動車事故の増加といった都市が直結している諸問題を、バス交通を活用したまちづくりを通じ、安全で豊かな暮らしやすい地域の実現を図ることを目的として、平成9年5月、旧運輸省、旧建設省、警察庁の三省庁が連携して創設した制度。これまでに浜松市、金沢市、松江市、盛岡市、鎌倉市、熊本市、奈良市、静岡市、仙台市、岐阜市、岡山市、松本市の12都市を指定されました。